

しやらりん

15

2007/11



人は生まれて

少しすると

歩み始める。

普通は人生終わるまで。

前進ばかりではない。

立ち去る歩みも、

歩みよる歩みもある。

一生歩みと

切り離れることは

できない。

目次

contents

同朋大会ニュース	3
教化委員会新設事業の紹介／パソコン相談室案内	4
親鸞の鼓動・六 「後序」と承元の法難 2	6
教区アラカルト 各組青少年活動紹介	8
表紙一文字の募集のお知らせ／コラム	10
アトリエしゃらりん	11
ちょっといこか／しゃらりんちゃん	12

歩

文 黒松千鶴子(第27組正念寺門徒)
書 畠中幸代

合意。止と少との合字。止はとどまる、少は踏む、即ち歩みすすむ義をあらわす。
『大漢和辞典』より

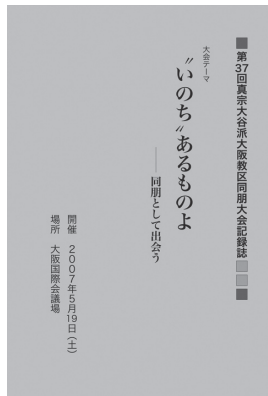
同朋大会ニュース 最終号

組同朋大会紹介スライド
DVDを教区内各組に配布

同朋大会記録誌を
発行予定

前号でもお知らせいたしましたとおり、教区同朋大会で上映されました「組同朋大会紹介スライド」のDVDを、教区内各組へ配布いたしております。また、大阪教区ホームページ「銀杏通信」においても、全編が観られるようになっていきます。

各組で同朋大会などを企画する際にも、たいへん参考になる内容となっております。DVDは各組々長のところにごさいます。また、銀杏通信のアドレスは、<http://www.ichio.gr.jp/vr/>。



反省会での意見

2007年6月1日(金)に行われました第37回教区同朋大会実行委員会の反省会にて、委員より様々な意見が出されました。その中から運営上の主な意見をご紹介します。

(1) 会場へのアクセスについて

① 難波別院からのバスに乘車する人が一時に集中し、開会に間に合わない人が出た。
② 帰りのバスでは、難波別院行きだけでなく、主要ターミナル(淀屋橋、大阪駅)での降車もできるとよい。

(2) 会場周辺について

① 正面入口の催し物に自動車が乗り上げてきていたため、大会参加者と車が接触しかねない状況だった。最初の手続の段階で正面玄関使用の詳細が分かっていたら、前回の経験を活かして様々な問題を回避できたと思う。

② 黄色のジャンパーよりも、間衣・輪袈裟のほうが参加者が分かりやすいと思う。
③ スタッフジャンパーは目立ってよいが、一目で真宗大谷派大阪教区のスタッフとは分かりにくい。今後、御遠慮に向けてジャンパーなどを調整される時には考慮してほしい。

(3) 会場内の動線について

① トイレの位置が受付を通る前にあったため、入場した人が再びトイレに向かつて退場してしまう様子が見受けられた。

② 参加券の裏に名前を書いたための記入欄があったほうがよかった。

③ 参加章の受け取り場所を明示したほうがよかった。

④ 席を先取りしてお茶を飲みに行く人もあったし、ロビーでの食事が目立った。

⑤ 空席の対処が難しい。席が空いても詰めてくれず、お願いすると怒り出す人まじりである。

⑥ 後方席に行きたがる方も多いので、関係者席は前方に作ったほうがよいのではないかと。

⑦ 参加者に足元の注意を促すため、色つきのテープを張るなどして対応したほうが良いと思う。

⑧ 実行委員が欠席したために計画した人員配置のとおりにならなかった。欠席される場合は組から代理の方を出してもらえようなシステムができないものか。

⑨ 従来の経験を元に計画を立てていたけれども、組での受付を廃したために想定できなかった事も多々あった。

教化委員会新設事業のご紹介

大阪教区教化委員会では、今年度、新しい事業として「推進員研修大会」「教区青少年教化に関する実行委員会」「帰敬式執行に関する講習会」を行うこととなりました。つきましては、各事業の概要をご紹介させていただきます。

推進員研修大会

大阪教区では本年度、推進員研修大会の開催が計画されています。推進員を正面に掲げる大会は、大阪教区において初めてのことです。この大会についての私なりのイメージを述べてみたいと思います。

真宗同朋会運動の発足以来、現在までに大阪教区では2700余名の方がたが推進員として誕生してくださっています。それらの方がたが一堂に会することに、まずもって大きな意義があると思います。そしてその大会の場で、それぞれが自分の推進員としての現場であるお寺で、組で、聞法会で、教区で、どのような取り組みと歩みをしているのかを発表し、そしてその取り組みへの願いと、歩みの中で生まれてきた課題について、お互いが耳を傾け、参加者

全員がその場での確かめを共有することができたならば、この大会はどのような雰囲気になっていくことでしょう。

推進員養成講座の展開によって、大阪教区においても組の共同教化がさらに定着しつつあるように感じられます。組に出て寺が見える、教区に出て組が見える、と聞きます。そのとおりだと思います。推進員となることは、垣根を越えて組・教区へ出て人と出会うということでもあります。しかしそれはまた新たにたまわった眼で、いよいよ自分の現場である寺や組や聞法会を荷負っていくということではなければならぬと思います。そのような出会いと確かめの機会となるような大会を、私は楽しみにしています。

(企画部会 高間重光さん)

青少年教化に関する 実行委員会

教区教化委員会におきましては、長年、基本教化課題にあげられてきた、「青少年教化の推進」という課題に対し、さらに一歩ふみこんだ取り組みをという願いのもと「教区青少年教化に関する実行委員会」を立ち上げることになりました。

日々報道されるニュースには、青少年を主人公とした家族、学校、社会で繰り返される悲惨さきまわる事件があとを絶ちません。この状況下、真宗の寺はどんな役割を担っているのでしょうか。かつて、オウム真理教事件のとき、青年が、「寺は風景でしかなかった」とコメントした衝撃が、今もわたしたちを問い続けます。

わたしたちはそれぞれの現場において、青少年教化の課題に直面し、苦悩しているからこそ、基本課題に掲げ続けてきたのでしょうか、その実、教区としては、主に青少年4団体や、専門部会等々のそれぞれの自主的業務内容に委ねてきたところが大きであったと言えなくもありません。

そんな反省を抱えながら企画部会、研修・講座部の合同会議がもたれてきました。組の青年会や、研修院生、教区青少年4団体の方々等から様々な意見も頂戴し、教化委

員会としての積極的な取り組みが願われ、青少年の課題に特化した実行委員会の発足となったことです。

善導の『往生礼讃』『日没無常偈』に
各、聞け

強く健やかにして力ある時

自策自励して常住を求めよ

とあります。今となっては、若い人たちへのメッセージとも、また、その人たちを機縁としての、大人たちの学びを促してくださる声とも聞こえます。

産声を上げたばかりの実行委員会にご協力、よろしく願います。

(研修・講座部幹事 宮部 渡さん)

帰敬式執行に関する 講習会

今年度、教区教化委員会の基本教化施策の中で「帰敬式実践運動の充実」と願われていますように、儀式・法要部では研修・講座部と共催のもと、住職・「寺族」を対象とした「帰敬式執行に関する講習会」を計画しております。本来は真宗門徒の帰敬式であります真宗本廟においてご門首による剃刀のもと帰敬式を受けていただくことですが、ご門首に代わって自坊でも帰敬式の執行を許されたことや、ご門徒の

お体を考慮すると本山まで足を伸ばすことができないという声などから、当部会では帰敬式執行の大切さと尊さのもと講習会をもつこととなりました。

当日は、「帰敬式執行に関する実行委員」が講師となり、お手本を一度みていただき、その後で一部の受講者の方にも実際に帰敬式執行の動きをおけいこしていただくよう予定しております。また、帰敬式執行に関する手引きを掲載しましたテキストも当実行委員会で現在作成しており、当日受講者には配布しこちらをみながら説明を進める予定でございます。

そして研修・講座部では、儀式執行の講習のみにとどまるのではなく、ご門徒に帰敬式を受式していただくにあたり、各寺院で事前学習をもつていただくため、帰敬式の意義ということで講座を1時間ほど併せて行います。

12月18日(火)に難波別院において講習会が開催されますので、住職・「寺族」の方はぜひご参加ください。なお、開催後は、各組において数名の講師が出向いて、講習会をいたしますのでこちらの方も組長を通じて教務所までご連絡いただき、開催いただければと思います。

(儀式・法要部幹事 山内 雅教さん)

パソコン相談室のご案内

— ホームページ部より

気軽に相談を！

ホームページ部では第2・4木曜日午後5時より、教化センター会館2Fの青少年ルームをお借りして、「パソコン相談室」を行っております。

パソコンは4台。実行委員によって、順次最新鋭のものに更新されております。も



ちろん、インターネット環境も整っております。

初心者の方にも丁寧に、わかりやすくお教えするように努力しておりますので、ぜひ怖がらずにご相談にいらしてください。

コンピュータというものはあくまでも

「道具」です。ちょっとばかり複雑で使いこなすのが困難ではありますが、あるいは使う人によって様々な使い方ができるものではあります。

しかし「道具」であることは変わりませんので、これを使って「何をしたいか」が問題になります。

ですから、よく初めての方にありがちな「とりあえずパソコンが使えるようになりたいな」という漠然とした思いを持ってコンピュータに向かっても、なかなか使えるようにはなりません。

寺報や案内状を作るのにもっとイラストなどが入った見栄えのいいものにしてみたい、お寺のホームページを作ってみたい、デジカメで写した写真をより傑作に見えるようにしたい、ビデオの編集をパソコン上

でしてみたい、そもそも日本語が打てるようになりたい、インターネットの仕組みを理論的に知りたい、パソコンの中身はどうなってるのか教えてほしい……などなど。具体的な「～をしたい!」という希望があれば、それに向かって、そしてそれを取っかかりにして、パソコンが使えるようきつとなると思います。

前もってメール等でご相談内容をお知らせいただければ、その分野に強い実行委員に声をかけることができますので助かります(オタクにも得手不得手があるのです)。もちろん、当日飛び込みで来ていただいてもかまいません。

ぜひ一度「パソコン相談室」へ足をお運びください。ようこそ案内いたします。

(ホームページ部幹事 澤田 見)

2007年の相談室

- 11月8日(木)
- 11月22日(木)
- 12月13日(木)
- 17時～19時 青少年ルーム

お問い合わせは大阪教務所(担当・伊東)、または info@icho.gr.jp。

親鸞の鼓動

七百五十年の響き

六

さる2007年1月29日、藤場俊基氏(金沢教区常讀寺)をお招きし、聖典講座『教行信証』に学ぶ」を開催いたしました。その講座の抄録を「親鸞の鼓動・六」としてご紹介いたします。

『教行信証』「後序」には、親鸞聖人ご自身の行実が記されていますが、必ずしも起こった順番に並べられていません。最初に35歳の時の承元の法難、順に39歳の勅免、40歳の法然上人の入滅、そこから「本願に帰す」という29歳の出来事が置かれ、その次に『選択集』の書写と法然上人の肖像画の模写を許されたという配列です。こういう形で

『教行信証』

「聖典講座」より

「後序」と

承元の法難 2

藤場俊基先生

の最後にご自分の生涯を語られることにはどういう意味があるのかは、『教行信証』を読む上で、避けて通れない問題だと思えます。

29歳の時に法然上人に出遇われて「雑行を棄てて本願に帰す」とおっしゃった時には、大きな感動があつたに違いありませんが、感動した時には、必ずしもそこで出遇った浄土の教えが十分に親鸞聖人の中で確かめられていたわけではないと思つたのです。その教えが、本当の意味でうなずかれていく契機となつたのが法難と師との死別という二つの出来事であつたと思えます。

このことを私たちは当たり前のことのように思っていますが、場合によつては逆になることも考えられます。つまり「法然に出遇いさえしなければこんな目にあわなかつた」という後悔の思いで受けとめる弟子がいたとしても不思議ではありません。

しかし、ここには、法難を恨みがましく思っている節は微塵もありません。むしろ、法然上人と出遇い、聞き得た浄土の教えがまぎれもな

く真宗と呼びうる仏教であつたということを讃嘆しているかのようです。親鸞聖人は、それらの出来事を通して29歳の時の法然との出遇いが成就したと言えらると思えます。別れをくぐつて出遇いなおしたのです。

前回、法難の当事者である親鸞聖人自身による記録と、弟子たちによる記録、あるいは慈円などの弾圧した側に近いところから見ている人たちの記録とでは、事件を見る視点が異なるということと言いました(『しやらりん』14号参照)。親鸞聖人の記録の特徴を整理しますと、まず処罰されたのは何かということ言えば、安樂・住蓮と宮中の女房たちとの問題は弾圧のひとつのきっかけであつたかもしれないが、本質的な問題とは見ていない。弾圧された者として実名が挙げられるのは「真宗興隆の太祖源空法師」だけです。このことは、法然上人によつて明らかにされた真実の宗教がそのものが弾圧の対象となつたのである、ということでしょう。そして、親鸞聖人も、自分はその真宗を生きんとする者の一人であるが故に連座したのであると。特筆すべきことは、弾圧を命じた責任者の実名を挙げていることです。その上で「主上臣下、法に背き義に違し、忿を成し怨を結ぶ」、「猥りがわしく死罪に坐す」と、過ちを犯したのはこの者たちであると言っています。これは、被害者の観点から書かれたものというよりも、むしろ判決文のような書き方です。弾圧者たちを弾劾、あるいは告発しているような文書です。

このようなことを言おうとするときに、問題になるのは、何を根拠としてそのことを言うか。そ

こがはつきりしていなければ、負け犬の遠吠えか、たんなる恨み言にしかありません。「主上臣下、法に背き義に違し」と言うためには「法」とは何か、「義」とは何かということが明確になつていなければなりません。親鸞聖人の場合は、それが仏教であることは明白です。自分が師法然から聞いた教えに依れば、前天皇も現天皇も間違つたことをしたと言わざるを得ないと。それを親鸞聖人は真実の教えたる仏教という意味で真宗と呼ぶわけです。

そこで問題となるのは、真実の教えたる仏教とはいかなるものであるか。それをいかにして確かめることができるのかということです。それこそが『教行信証』の課題であると言っても過言ではありません。そこがはつきりしなければ「法・義に対する背・違」を言うことはできないのです。『教行信証』の冒頭の「教巻」には「それ、真実の教を顕さば、すなわち『大無量寿経』これなり」とあります。私たちは、『大経』は真実教である」ということを当然のことと聞かされてきました。親鸞聖人がそうおっしゃっているからと、何の疑いも持たずにそう思い、なぜそうなのかということを考えようともしてこなかったのではないのでしょうか。

例えば『法華経』は、舍利弗との間に三三三請と言われるやり取りがあった上で、ようやく説法がはじまります。私は、真実の教を説くにあたって非常に慎重であったわけです。説法者である仏自身が、「真実教を説く」と仰っているのですから、これほど確かなことはありません。しかし、『法

華経』は、説法が始まる前に5千人の弟子がその場を立ち去ってしまいます。つまり、真実が説かれる場に、留まらなかつた者がいるわけです。説法の内容がどうこうという以前の問題として、私たちがその場に残れるかどうかということが問われているのが『法華経』なのです。私は、そこに親鸞聖人が『法華経』と訣別された理由があるのではないかと思えます。

気をつけなければならぬのは、「教巻」の言葉は『大経』の説法を、真実の教えとしていた「だく」という意味であつて、『大経』は真実教である」と断定しているわけではないということです。『大経』と『法華経』を読み比べて、どちらの説法が勝れているかを判断しているのではありません。親鸞聖人といえども、仏の説法を評価し選別するということはできないし、してはならないことです。どこまでも仏弟子として仏説に向き合う。このような決定の仕方は、他の経典が真実ではないと否定する必要はありません。すなわち聞く立場に身を置いて、自分のための教えが説かれている経典を見定めたのが「教巻」です。

本当に信頼すべき教えとは何かということをおかして確かめるのか、私たち一人ひとりにおいて、このことがはつきりしていなければ何を聞いても絵空事になっていきます。どういうことかと言いますと、「教巻」の御自釈に「宗・体」として、はつきりと述べられているように、端的に『大経』の説法のコアを押しえれば「本願を説く」とこと「仏の名号」におさまってしまうのです。これが『大経』の結論です。親鸞聖人が「それ真

実の教を顕さば、すなわち『大無量寿経』これなり」と言ってきたこととは知つていても、「ただ念仏しなさい」と言われると、「なるほど、それこそが真実の教え」だとはうなずけない。これが私たちがいちばん引つかかるところです。簡単に過ぎて、誰も真に受けないのです。その姿が真実の教に背を向けてしまう存在です。真実を聞いたら背を背けてしまうのがわれわれなのです。そして、浄土真宗というのは、そういう存在を正面に見据えている教えなのです。

私たち一人ひとりにとって『大無量寿経』が本当に信頼できるよりどころであるということが確定していなかったら、自分が納得できないことができたときに、すつと腑に落ちていかなければ、教えに対する信頼が最初に成立していなければ、何を聞いても「本当かいな」ということになつてきます。

ですから、「教巻」というのは本当に大事な巻です。真実の教えに背を向けてしまう我々が本当に信頼すべき教えというものどこに見定めるか、『教行信証』は、その確かめからはじまり、一貫してその確かめの上に立つて展開していく無量寿経論であるのです。(文責・しやらりん編集部)

※限られた時間の中で十分に展開できませんでしたが、不十分な点は、まもなく明石書店から『親鸞の仏教と宗教弾圧』という書物を出版する予定です。ですので、ご参照いただければ幸いです。

(藤場俊基)

各組青少年活動紹介

第2組

私ども2組の若手の会（朋友会）は2002年7月にかねてより組内会等の要請もあつて、次代を担う若住職、候補衆徒、寺族の方を対象に交流と親睦を図り共に学び共に語り合える関係を築くべく、数名の賛同者を得て発足しました。

自分たちが寺院活動に携わる上で関わってくる必然的な課題を持ち寄り、できることから実施してきました。儀式声明に精通している会員の助言もあつて、「七條袈裟等法衣の着付け畳み方講座」では、初歩的な間違いに気づかされました。組坊守会との共催で仏華研究会「ちいちの華」の松井聰氏を招いて立華の指導をしていただき、工夫次第でできる立華の面白さを教えていただきました。最近では日本酒の空箱を使った「手作り根菓餅講座」を催したところです。

本来ならば連続して講究していくべきとは思いますが、諸般の事由で年に数回の集まりを考えま

すと、固執せずとその都度で幅広く有意義に学習出来たらと思います。
（第2組了安寺・海老海恵幸さん）

第12組

12組では、次代を担う若手寺族が近年増えてきていました。しかし、なかなか組の活動へ参加することは難しい現状でした。そこで受け皿となつて学習、親睦を図るための組織として、青年会を一昨年立ち上げました。

メンバーは現在11名。2ヶ月に一度程度集まつて活動しています。運営は、会員からの会費と組からいただく助成金によって賄っています。

年1回の青年会報恩講・総会、「親鸞聖人講座」として宗祖の御生涯を数回に分けて学習、儀式作法の講習、立華の練習などを行ってきました。

今年度は11月に青年会報恩講、教区教化委員会



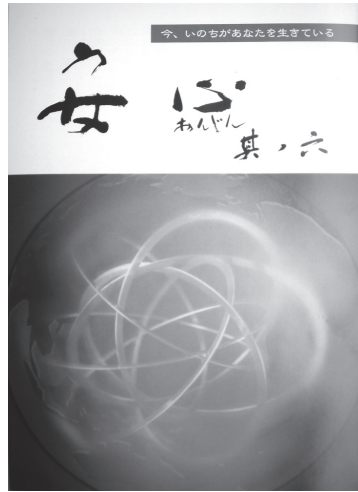
↑第12組青年会 立華の練習の様子

お受けしての3回の講習、「親鸞聖人講座」として昨年度より引き続き2回の学習会、また会員やその家族の親睦を図るためのバーベキュー大会などをを行う予定です。

今年末には会員の中より3名の結婚ラッシュも控えており、青年会として、つれあい、子どもを含めた家族ぐるみのお付き合いができるような楽しい会に、そして真宗の「寺族」としてお互いに学びあえる「サンガ」のひとつとして、発展していけるようにと願っております。

(第12組清澤寺・澤田 見)

第17組



↑『安心』表紙

第17組青年部では、6年前より活動の中心に『安心』という冊子づくりを行っています。ご門徒にお配り出来る簡単な冊子を通して、お寺とご門徒の間に風通しのいい関係を築いていければという思いで始めました。

内容は、

〈法話〉いろいろな先生方に御依頼しています。

〈研究発表〉青年部メンバーの小論文。

〈同朋の声〉ご門徒に日ごろの思いやお寺との関

係について書いて頂いています。

〈マンガ「忘れていた者たち」〉歎異抄を中心に青年部で内容を作成、画は第20組安楽寺の坊守さん上本賀代子さんにご協力いただいています。

〈仏事情報発信基地 知ってた?〉私たちの宗派は?お内仏、お焼香のお作法、お墓等々、真宗入門的情報ページ。組内、組外の各寺院1冊100円にてお求め頂き活用してもらっています。

私たちの教化活動には様々な形があると思う。お寺の法座や大きなイベントなど、しかしその中で、若い世代のご門徒が足を運ばれる姿を見ることは少ない。マンガ等で仏法を紹介しているこの冊子をお配りする中で、子どもさんやお孫さんの



↑『安心』より マンガ「忘れていた者たち」

目に触れれば、それも糸でつながるような教化活動ではないだろうか。

(第17組法観寺・廣瀬 俊)

第21組

21組青少年教化部では、教化人形劇を製作しています。9年ほど前、先輩方が人形劇を作られたのが始まりで、今日まで引き継がれてきました。

人形劇作りといっても経験者がいなかったため、当初は手探りでしたが、いろいろと模索する中で、オリジナルの台本も創作するようになりました。

子どもたちが来れば必ず保護者もやってくる。一人でも多くの方にお寺へ足を運んでもらえるように、子どもからご年配の方まで楽しめるような人形劇にしたい。そういう願いを込めて製作にあたってきました。今では、花まつりの時期になると、上演してほしいという依頼も少しずつ受けるようになってきました。

少し練習すれば誰にでもできるような簡単な内容です。お寺で何か始めてみたいと思ったとき、この人形劇が一つのきっかけになってくれればと思っています。

(第21組南通寺・荒川裕信さん)

しやらりん表紙
漢字一文字大募集!
のお知らせ

『しやらりん』をいつもご愛読いただきありがとうございます。13号(2007年2月発行)より表紙を一新しまして、みなさまからお寄せいただきました「漢字一文字」とその漢字一文字に関する「詩」にいたしましたところ、好評を博し、多方面から応募いただいております。



そこで、このたび染筆いただいております畠中幸代氏のご協力を得て、表紙に採用された方にはその文字を畠中氏に色紙に書いていただきプレゼントさせていただきますこととなりました。

ぜひ、みなさまの思いのこもった一文字に詩を添えて、ご応募くださいますようよろしく願います。

応募要項

漢字一文字・その文字にまつわる詩・お名前・住所・電話番号・所属寺院名を明記の上、左記まで郵送、ファックスまたはEメールでお送り下さい。

宛先／大阪教務所内『しやらりん』表紙漢字一文字募集係(担当：藤政)
住所／大阪市中央区久太郎町4-1-11
電話／06-6251-4720
ファックス／06-6251-4796
Eメール／office@icho.gr.jp

畠中幸代氏プロフィール

1946年 奈良県生れ。現在京都市在住。

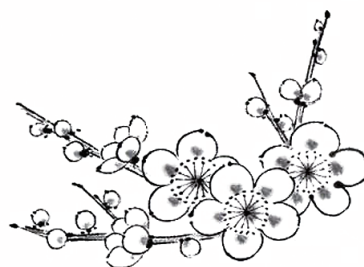
1979年～1987年 由良鳳英先生に仮名を学ぶ。1995年～1999年 今岡徳夫先生に漢字を学ぶ。1996年 毎年墨人会に出品。現在準会員。2000年墨人賞受賞。

1982年 Calligraphy「墨麗(すみれ)」設立。書Createeとして、商業書・ロゴタイプ制作。現在に至る。



アトリエしゃらりん

画・畠中晃子



パソコン用データはこちらからダウンロード→ <http://www.icho.gr.jp/shararin/sozai/>

コラム「恐怖の永代経」

私たちは、物事を推測だけで判断することがある。「ああ、そういうことね」などと、専門的には、「無作為抽出された部分(標本)から抽出元全体(母集団)の特徴、性質を推定する」ことが推測らしい。つまり、自らのデータを頼りにした勝手な思い込みである。しかしその推測から思わぬ恐怖の体験を招くことがある。

その日夕暮れ近く一本の電話が鳴った。廣瀬「はい、法観寺です」

電話の主は、〇〇シズエという方。〇〇さんとはご門徒におられたので、そのご身内の方かと、勝手に推測した。用件はこうである。

電話の主「うちのもん、お寺にちゃんと永代経あげてますやろうか？」

なるほど、若い人たちは、永代経などということに気がつかないのではと、わざわざ電話下さったのだ。

廣瀬「はい、確かご懇志いただいたと思います。また確かめておきます」

数日後、その〇〇さんの家にお参りした。廣瀬「先だって、シズエさんという方からお電話がありました……」

と何気なく話すと、その家の方の表情が急に変わった。そう思っていると次に出た

言葉は、ご門徒「シズエは亡くなった、うちのおばあちゃんです」

廣瀬「えっ！」

すかさず過去帖を見たことはいまでもない。確かに「俗名 シズエ」となっている。勝手にご身内の方とばかり思い込んでいた。

では……一体…誰が…何処から……。

携帯電話の普及率は総務省の調査によると93.9%になるといし、全国のドコモショップの店舗数は1317店舗もあるらしい。お浄土の七宝の池あたりにドコモショップ極楽店があっても不思議じゃないだろうか。まさにご自分の永代経を心配されてお電話されたのだろう。

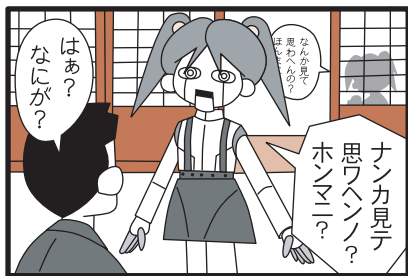
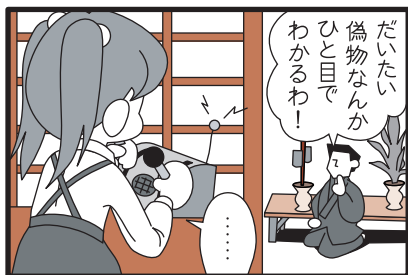
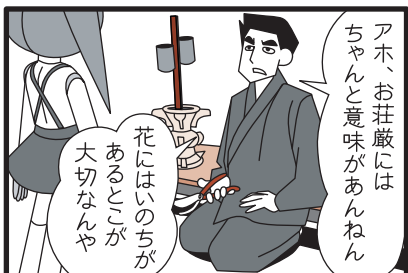
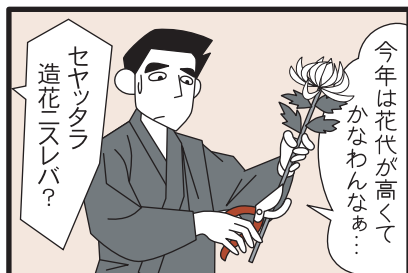
お寺に帰り家族にその話をすると、曰くろは暖かい我が家が、凍てつくような恐怖におののき、その夜はなんとなくオカルト映画を見た後のような雰囲気漂っていた。

数日後、電話の主は亡くなったシズエさんのご姉妹で、嫁いだ自分の名前をお寺に言っても分からないだろうから、亡くなった姉の名前で電話をしたという事実が判明した。

なにはともあれ、勝手な推測とは全く違ってにならないものである。(廣瀬)

しゃらりんちゃん

ニセモノ編

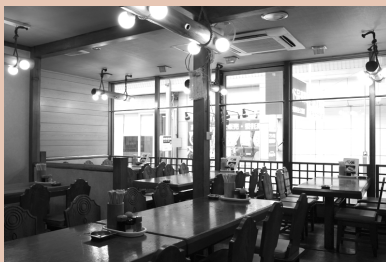


居酒屋 武蔵

MUSASHI

今回、女性のみなさまには申し訳ありませんが、まさにオジサン達のためのお店です。たまたまかもしれませんが何度か通ったなかで、お店のお姉さん以外に女性の姿は見たことがありません。それでもオシャレより実を取りたい方は是非どうぞ! それではオジサンの憩いの世界を覗いて見ましょう……。

とりあえずビール!と、すぐに出てくる「旨味噌キャベツ」をかじり、もつ鍋の用意ができるまで牛すじの一品ものでつなぎましょう。お勧めは「すじコロッケ」「牛すじのあまから煮」。急いで頼んでおかないと売り切れ必至の人気メニューです。他に「山芋とろろの明太子焼き」は見た目は怪しいが止められない珍味。メインはもつ料理ですが、お造りや天麩羅もありますし、酒の肴に不自由することはありません。



さてお待ちかねの「ピリ辛もつ鍋」が出来上がってきたようです。美味しい!これで一人前880円! 意外にもスープにニンニクは入っていませんので、そちらはお好みでどうぞ。柚子胡椒も合いますよ。追加のトッピングは「ニラ」「こてっちゃん」「中華そば」など12種類と充実しています。

ただし美味しいからって調子に乗って食べ過ぎないこと。翌日、胃にドーンとくることも(複数の経験者有り)。そんな心配のない若い方にはなおのことお勧めの安くて美味しいお店です。(平野)

御堂筋
中央大通
南御堂
心斎橋筋

[武蔵]
 大阪市中央区南本町3-3-17
 TEL06-6251-6348
 営業時間 ● 11:00~14:00
 17:00~23:30
 定休日●土日祝



■南御堂周辺のお店紹介

発行日:2007年11月1日
 発行所:真宗大谷派大阪教務所
 大阪市中央区久太郎町4-1-11
 TEL06-6251-4720

- 発行人:五辻信行
- 編集:
- 第4組 常榮寺・久世見証
 - 第9組 淨園寺・難波美千子
 - 第10組 是三寺・北川浩三
 - 第12組 清澤寺・澤田 見
 - 第17組 法観寺・廣瀬 俊
 - 第27組 願隨寺・平野圭晋
 - 第27組 信證寺・吉内利彦
 - 第27組 浄宗寺・島中晃子

<http://www.icho.gr.jp/shararin/>

編集後記

◆彼岸花も咲き遅れる程でどうなることかと思いましたが、やっとの事で暑さも収まってきました。しゃらりん15号をお届けします。◆2011年の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌まで4年となりました。今号でも御遠忌に向けての教化委員会新設事業を取り上げましたが、教区でも御遠忌に向けて様々な取り組みが本格的に動き始めています。◆ところで、御遠忌お待ち受け大会での記念講演にて宮城顕氏は「汝、起ちて更に衣服を整うべし」との大経の言葉を引いておられます。今こそ、これまで握りしめてきた答えを捨てて、再び問いの道へ歩踏み出せという呼びかけなのでしょう。◆しゃらりんでも引き続き御遠忌に向けての紙面作りをしています。◆その一環として、各組での具体的な教化活動を紹介しています。他者の姿を見ることで自らの姿が明らかになることもあります。しゃらりんが点検・再始動への一助となれば幸いです。(K)